

## 第7回 重箱のスミス Script 【The Script of Smith at the BOX's corner(4)】

Tatsuya: さあ、今週も始まりました、重箱のスミス。この番組は日本語の中で他の国の方が不思議に思いそうな言葉。それに光をあてて、あらためて日本の文化を考えてみたいという番組です。先週、先々週、そしてその前と、3週間にわたって、お休みをしてしまいました。申し訳ありません。言い訳をしようと思えば、いくらでも言い訳は出来るんですが、今回に関しては、前前前回の、あ、いや、前回のクオリティの高さに酔ってしまったというのがメインなところかと思います。

さて、今週のお相手は、日本語界のエヴァンゲリオニスタ、太田信平さんです。

Shimpei: ざーんーこーくーなてんしのようー、しー・・・

Tatsuya: すごい

Shimpei: いやーどうもー太田信平です。

Tatsuya: おー

Shimpei: そうとう、あがちゃっててですね

Tatsuya: 気合入ってますねー

Shimpei: 今回はねー、マルドゥックの報告書、全部あさって読んできました！

Tatsuya: 読んじゃいました！？

Shimpei: 入ってますよ、頭ん中に

Tatsuya: すごいなー

Shimpei: まけませんよ

Tatsuya: えーまあ今回ホントにエヴァンゲリオン風になるのかどうか、すべてはゼーレの意思次第ということで

Shimpei: そうですねー。今使徒撃退が一番の優先事項なんで

Tatsuya: はい

Shimpei: がんばっていきたいなーなんて思ってるんですけども

Tatsuya: あれ？(音楽が)止まっちゃいましたけど？

Shimpei: あの一、、45秒しかね

Tatsuya: そこもエヴァンゲリオン風で、アンビリカルケーブル切れて

Shimpei: あ、外れちゃいましたね。アンビリカブルケーブル。

まあ、ボクとしてはですね。太田シンペイなんですけども、普段は、今日は、太田シンペンペンで、いきたいと思ってるんですよ！

Tatsuya: うん

Shimpei: ペンペンね！

Tatsuya: あ、、なるほど

Shimpei: ウィィィ！の

Tatsuya: はあ

Shimpei:ウイイイイイ！

Tatsuya:はい。。。。え？

Shimpei:ウイイイイイイ！！

Tatsuya:うん。「ウイイイイイ」は分かったんですけど、

Shimpei:ペンペンね。あのー

Tatsuya:ペンペンも分かるし、「ウイイ」も分かりましたけど

Shimpei:シンジ君とペンペンが、一緒になって、えー、たまたま僕の名前とおんなじって  
いう

Tatsuya:ん・・・？あっ、、シンペイですよ？あなた？

Shimpei:わかってるよ！でも、出来るわけないよ！こんなこと！

Tatsuya:さあ！まあ、今週はですね！独り言って言うことを、まあ、ずーっと、、あ、ずー  
っとじゃねえや、前回やったんですけども、まあ今週はね、語尾！言葉のしっぽ  
と書いて、一つ一つの文の最後の言葉。そこにね、注目していきたいなと思うん  
ですよ。

Shimpei:はい。

Tatsuya:まあ、なんか思いつくものありますか？

Shimpei:わかってるよ！ よ

Tatsuya:あ、「分かってるよ」の「よ」！

Shimpei:できるわけないよ！

Tatsuya:「できるわけないよ」の「よ」！

Shimpei:こんなの乗れるわけないよ！

Tatsuya:おーシンジ君、はい、あのね、えー外国人の方と、日本人の人で、ある程度ね、使  
う語尾の種類ってというか、そこにある程度違いがあるっていうことに、気付いま  
した。で、よく考えてみると、日本語って言うのは、ニュアンスを左右する言葉  
ってというのが、非常に後ろのほうに来るっていうね。で、ここに、ネイティブと  
そうではない人、不自然さ、不自然じゃないところ、あとは、まあなんか、しゃ  
べってて、「あー、なんか、こいつ、やわらかい表現を使うなあ」っていうところ、  
ていうのが凝縮されてるのが、後ろなわけです。語尾なわけです。

Shimpei:そうですね。

Tatsuya:そこにね、光を当てていきたいと、ということなんですけども、一回ね、分類させて  
いただきました。

Shimpei:はい。

Tatsuya:で、外国人が言いそうなもの、なんか、太田さん思いつくものありますか？

Shimpei:んー、外国人って、、ん、だとですね。あのー、「何言ってるんだよ。」

Tatsuya:あー「何言ってるんだよ」

Shimpei:何イッテンダヨー！その、「ヨ」を強調しますよね。

Tatsuya:はい。はい。「こないだ、浅草に、行ったんだヨー！」

Shimpei:んー

Tatsuya:んー

Shimpei:もうそれで、それ言われちゃうと、「おー、頑張ったなー！」って

Tatsuya:ねえ、終わっちゃいますねえ。

Shimpei:「やるなあ！おまえ！若いのに！」

Tatsuya:「イッタングダヨ！」「イッタングダ！」とかもありますけどね

Shimpei:だから、強く、外国人の方は言う方が多いんですけど、それ言うと、あの一聞き手がね、それ聞いて、「あー」ってなっちゃうんですよね！

Tatsuya:まあ引き続き見ていきたいとおもうんですけども

Shimpei:そうですね。

Tatsuya:まあ、ほかには、外国の方がよく使うのは「です」「ます」「ね」「ですよね」

えー細かく例文で見ていくと、

「こないだ浅草に行ったんです」

「これ、おいしいです」

「これ、すごく、汚く見えます」

Shimpei:なんだそれ！何見ちゃったんでしょうね。

えーと、「です」「ます」は当然、アレで出てくるんでしょうけど、テキストなり、あれでね。「だよ」とかは、たぶん、文法書とか、そういうのにあんま出てこないと思うんですけど、いわゆる砕けた表現として、「だよ」とか「だ」とか、つけることで、ネイティブらしさが出るんじゃないかって信じられてるんですよ。

Tatsuya:なるほどね

Shimpei:ええ

Tatsuya:ぼいですね

Shimpei:はい

Tatsuya:ぼいなー、それぼいなー

Shimpei:はい

Tatsuya:で、ほかにも「ね」とかもあるんすよ。

Shimpei:はい

Tatsuya:あの、これ、「ね」を使う人に多いのは、日本に来て、もうとにかく喋りまくって覚えたみたいなの。で、実際、これから見ていくんですけど、日本人の使う語尾の中で、「ね」が付いてるものって非常に多いんですけど、

Shimpei:はい

Tatsuya:これが、使い方が違うんですよ。

Shimpei:はい、ちがいますね。

Tatsuya:だいたいまだちゃんと日本語を使いこなせてないけど、とにかく話す回数が多いっ

て人が多いのは、動詞のあとにすぐ「ね」をつけて、「おー、～するねー！」

Shimpei: ちょっと、無理がありますよね。なんかあの一

Tatsuya: 「行くねー」

Shimpei: うん。ひょっとしたら、あの、「ね」つけなくてもいいんじゃないかなっていう時にも「ね」つけて、何を聞いてほしいのかっていうのは・・・

Tatsuya: なんか、ねえ、「木曜日だねー！！」今日月曜日ですけど、

Shimpei: 月曜日でも

Tatsuya: 実際にね。じゃあ、どういう「ね」が、(日本人に)使われてるのかっていうのを見ていきたいんですけど。

Shimpei: はい

Tatsuya: 日本人の良く使う語尾ってね、非常に多様で、多いんですけど、「ね」で共通してるのは、たとえば「だよね」「ですね」「ますね」「～すね」  
あ、太田さん、それかっこいいっすね

Shimpei: ありがとうございます

Tatsuya: あとは、他の人が「あー今日疲れたわー」とか言ってたら、「今日結構歩いたもんね」

Shimpei: はい、やさしさもありますよね。

Tatsuya: はい、はい、はい

Shimpei: あの一、われわれの「ね」はですね。僕が思うには、全部言わずに、相手にもある程度、考えさせた上での、これ今までやってきたあれだと思いうんですけど、

Tatsuya: はい

Shimpei: やっぱり、日本人で自信が無いのか、相手にいろいろ求めるんですよね。会話の中で、

Tatsuya: そうなんですよ。

Shimpei: そこでこの「ね」という言葉が

Tatsuya: 多いんですよ

Shimpei: はい

Tatsuya: で、他にも、よく使う語尾としては、「～したよ」とかね。でも「よ」はそんな使わないかな。

Shimpei: まあそうですね。「行くよ！早く！」「もうでないとマズイよ」

Tatsuya: もう、でも、この「よ」ですら、強い感じしますね。

Shimpei: そう、ちょっと、だから、「ね」とはまた違う

Tatsuya: 「よ」ばかり言われたらムカつきますね

Shimpei: はい、まあ攻撃的ですよな。「よ」は、まあ、使い方によりますかね？

Tatsuya: あと、「わ」とかね。「わ」！「わ」！

Shimpei: 「わ」つかいますね～！

Tatsuya:「～だわー」「疲れたわー」

Shimpei:これも、だから、どこか相手にも同調を求めてるっていう感じかもわかんないですね。

Tatsuya:うん。「わ」同調求めた独り言って感じですね

Shimpei:そうですね。

Tatsuya:「ね」は直接的に触ってる感じで

Shimpei:これ、独り言シリーズ

Tatsuya:はいはい

Shimpei:典型かもわかんないですね

Tatsuya:ま、こういう感じでね、まっ、疑問の時の語尾って言うのもあるんですけど、まっこれは後々(のちのち)ね。この語尾シリーズ

Shimpei:はい

Tatsuya:我々、語尾(ゴビ)砂漠に降り立ったのでね。

Shimpei:あ、これは、広いですからね。

Tatsuya:ひろいですよー。広いし足とられたら抜け出せませんから

Shimpei:抜け出せませんよ。下山が、もう、勝負ですから。あ、違うかこれ。

Tatsuya:山じゃないから

Shimpei:昔のね

Tatsuya:はい。で、まっね。我々なりに出してきた語尾の中で、多いのは「ね」とか「わ」なわけです。

Shimpei:あの一聞いたこと無いですからね。外国の方が「疲れたわー」って言ってるの。

Tatsuya:で、まっ「ね」は使ってるけど、ちょっと違うっていうね。で、これを、うまく使って、周りの奴から一歩離れたね、「あ、なんか君、日本人みたいな日本語しゃべるね」という風な、間違った「ね」の使い方をしてる奴と差をつけてやろうっていう作戦なわけです。

Shimpei:そうですねー。

ゼーレっばい男A：今週は、日本人の使う語尾と、外国人の使う語尾の違いを見てきたわけだが、この続きは、長くなるので、また来週とする。

ゼーレっばい男B：左様、また、来週とする。

ゼーレっばい男A：そして、これが、「重箱のスミスを聞いていないとポカン計画」の始まりだったのである。

ゼーレっばい男B：左様、これが、ポカン計画の始まりなのである。